

事案名	和歌山県内の事案（和歌山県30-1）
分類	廃棄・遺棄 発見・被災・掃海等処理
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年8月29日〔1〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔2〕
資料内容概要	<p>終戦直後、弾薬（毒ガス弾）入りと思われる木箱を和歌山県内の山中の防空壕に埋めたとの証言がある。</p> <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元軍人の証言によれば、「昭和20年8月15日から9月5日、大学箱（長さ60cm×幅40～45cm、高さ30cm位の油を塗った木箱。中身は何か教えてもらえなかったが、弾薬（毒ガス弾）が入っていたと思った）を、第1中隊から第4中隊の4中隊の憲兵で運び、山中の防空壕の中に埋めた」と記載されている〔1〕。 <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和46年2月15日に、和歌山県内で毒ガス標本（アンブル）6本が発見され、自衛隊によりコンクリート密封後、海中投棄された〔2〕。